

学校関係者評価報告書

愛媛県立松山聾学校
学校番号 (49)

評価実施日		令和8年3月4日(水)	
委員	氏名	所属等	備考
	林 紀代志	株式会社クロスサービス	
	川端 智子	愛媛県視聴覚福祉センター	
	寺岡 正人	愛媛大学医学部附属病院	
	岡本 隆	愛媛大学社会共創学部	
	和氣 齊	愛媛県松山市馬木町内会長	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
1 今年度の最終評価について (1) 学習指導・言語指導 保護者アンケートの結果が良い。学校と家庭のコミュニケーションが良好であることが伺える。読書指導については、5分間読書に固執せず、幼児児童生徒の実態に合わせ、「読み聞かせ」や「時間の弾力的確保」など柔軟な対応を期待したい。 (2) 特別支援教育体制 筑波技術大学との連携による授業では、生徒が将来の合理的配慮を自ら説明する力を育む取り組みがあった。センター的機能については、相談窓口の一元化を見据え、視聴覚福祉センターや医療機関等とのさらなる連携強化を期待する。 (3) キャリア教育 アフターケアにおいて直接訪問等を行い、本人・家族・事業所の三者連携を深めた点は評価できる。キャリアパスポートの蓄積を振り返り、児童生徒が自らの成長を客観的に捉え、主体的に学ぶ姿勢をさらに引き出してもらいたい。 (4) 生徒指導 児童生徒の意見箱の導入により、前向き投函が増加し、早期発見・支援の体制が可視化されたことは大きな成果である。 安全教育については、学校内だけでなく、地域での防災訓練への参画など、実社会での危機管理能力の育成を推進していただきたい。	・あらゆる学習活動において個別の指導に十分な時間をとり、個別最適な学習を実践するように努めていきたい。 ・朝の会やSHRなどで読書の効果を説明し時間を確保して読書の習慣を身に付けさせるようにしたい。 ・自立活動において「自己理解」と「自己発信」の指導を継続する。 ・地域の難聴児支援の中核として、窓口一元化への対応と、保護者が迷わず相談できる体制の周知を図る。 ・キャリアパスポートの活用を定着させ、過去の目標と現状を比較・考察する指導を周知させたい。 ・キャリア教育として、福祉施設を含む多様な見学先や実習先を検討したい。 ・児童生徒の意見箱を通じた啓発を継続し、子ども同士の学び合いを促す集団指導を工夫する。 ・「たすけてブザー」の活用徹底に加え、地域と連携した安全教育・防災教育も計画したい。
2 学校運営への提言 情報発信は目標を達成しており評価できる。今後は、松山城北特別支援学校の開校も踏まえ、町内会等とより密接に連携していただきたい。 地域住民が安全面で難聴児の視点を持つことは、防災力向上に直結する。学校側からもアイデアを提示し、行政の力も活用した環境改善を推進していただきたい。	・学校HPやSNSを活用し、本校の教育活動をより深く理解してもらえるような情報発信を継続する。 ・委員や地域との連携を深め、外部の協力と連携を活用して改善していく。